

バイオガス発電参入

現代の

楽市楽座

養父市 国家戦略特区

東北、関東地方で発電事業を手がける「トヨーエエネルギーファーム」(本社・福島県相馬市)が、養父市大蔵で家畜ふん尿を利用したバイオガス発電とトマト栽培事業に参入する。昨年12月に現地法人2社を設立、来年6月頃の施設建設着手を目指し、地元住民らに説明を始めた。

(高田寛)

福島で企業 家畜ふん尿で 来年6月建設着手へ

昨年12月時点での計画によると、発電所用地1万1800平方メートル、農地6200平方メートルを借りて施設を整備。市内で飼われている牛や鶏、豚のふん尿、県内の製造・加工会社から出る食品かすを集め、発酵槽で発生させたメタンガスを燃料にして発電する。

トマトの栽培では、露地栽培から始めて水耕栽培の植物工場に移行、地域プラント化を目指す。発電施設での排熱を栽培に活用する。

トヨーエエネルギーファームの担当者は「ふん尿処理の負担から飼育頭数を増やせない農家の問題を解決でき、エネルギー有効活用や雇用創出など地域活性化に貢献できる」と、来年9月に特区の事業計画が認定された。

同社は、トヨー建設(本社・東京)が出資して2012年に設立。福島、茨城両県などに太陽光発電所を持ち、国の固定価格買い取り制度を利用して事業展開している。国家戦略特区で農業生産法人設立時の役員要件が緩和されたのを受け、養父市進出を決め、昨年9月に特区の事業計画が認定された。

現地法人は「トヨー養父バイオエネルギー」(資本金1000万円)と「トヨー養父農業生産法人」(同500万円)で、いずれも本社を八鹿町八鹿に置いた。

トマト栽培も 雇用創出貢献

説明する。

いた。